

「エホバは敵対者たちの努力を妨げる」(MWB20240702 宝)

0. (敵対者の迫害の手が迫る時に備えて私たちはどんな準備ができる?)

これまで迫害にあった経験が有るか無いかに関わりなく、大患難の時にエホバの証人全ては迫害を経験することになる。その時に備えてどんな準備ができる? 例えば、何日間か食事を取らなくて良いように脂肪を蓄えておく必要があるか? 勿論身体よりも心の準備の方が重要で、その大患難の時に怯えたり心配し過ぎて平安を失い、エホバの保護から離れてしまうことがないようにしなければダビデや1世紀のクリスチャン、現代のエホバの証人の経験から、**それほど心配する必要が無い事学ぶ**

1. (ダビデはサウル王から身を隠さなければならなかった)

詩編 57 編には、その表題に「**ダビデがサウルから逃げて洞窟に入った時**」とあるように、3000 人もの部下を伴ったサウルから死海西側のエン・ゲディという岩の多い地域まで追跡されていた時のダビデの心情が歌われている[詩 57:1]。**ダビデがどれほど救いを必要とし、実際エホバが保護となってくださっていたことが分かる。**

2. (エホバはダビデの敵対者たちの努力を妨げた)

ダビデがこのエン・ゲディの洞くつにいた時、サウルが用を足しに入ってきた。ダビデはサウルが分からないように上着のすそをそっと切り取りとったが、部下たちが「エホバの油そそがれた者」に危害を加えることを決して許そうとしなかった。

[画像 1 表示] 後にサウルがそこを下って離れた後ろから、ダビデは声を掛け、袖なしの上着の裾を切り取りはしたが、命を容赦したこと、決して歯向かうつもりはないことを伝えた。それでサウルは、切り取られた上着の裾を持ってばつの悪そうな表情を浮かべているが、ダビデが正しく自分が間違っていたことを言い表す。[画像 1 感謝]

ダビデを捕まえ損ねたサウル王と部下たちは一旦は家に帰って行き 次の言葉の通りに[詩 57:3]

3. (敵対者たちのたくらみは裏目に出ることが多く) それほど心配する必要が無い

さらにこのサウルのような敵の企みは成功しないどころか、次のような結果になることもある

[詩 57:6] 敵が自分で仕掛けた罠に落ちたり企みとは逆に神のご意思が促進され、裏目出多

- ① ステファノの死をきっかけ起きた「激しい迫害」により、使徒たち以外の弟子たちみんなが散り散りになり、ユダヤとサマリアのあちこちに追いやられたが、伝道はストップしなかった。フィリポはサマリアに行って素晴らしい成果を上げた。散らされた人たちの中にはユダヤ人に限らずギリシャ語を話す人々にも語り始めた。**結局迫害により、かえって神の王国の良い知らせが広まった。**
- ② 敵対者たちの企みが裏目に出た現代の例として旧ソ連で第二次世界大戦終了後 1950 年代に起きた迫害がある。[画像 2 表示] 何千人ものエホバの証人がシベリアに連行され、さまざまな拠点に送られたことにより、広大なシベリアの各地に良い知らせが広まった。伝道のためにそれほど多くの人が、遠くは 1 万^{キロメートル}もの距離を移動するための膨大な費用を賄うのは困難だったが、言わば国がエホバの証人を各地に派遣してくれて、**反対者たちによって業が拡大することに。**[画像 2 感謝]

4. ではこれから私たちは、反対に遭った時、どうすればエホバへの信頼を示せるか

[詩 57:2] エホバが全ての災難を終わらせてくださることを確信しエホバに救いを求め続けることができるでは**今祈りの習慣を身に着けて、今も将来迫害に遭った時も、エホバへの信頼をはっきりと示してゆく**